

# おろそかにしてはならない！ マメコバチの繭洗浄



～マメコバチは小さな小さな縁の下の力持ち～

---

西村山農業技術普及課  
専門普及指導員  
高橋 永暉

# マメコバチが激減しています



記録的な猛暑を背景に山形県に限らず全国的にマメコバチが激減



普及課で「マメコバチの繭洗浄講習会」を開催



生産者が各自の園地からヨシ巣を持参し、繭洗浄を実践



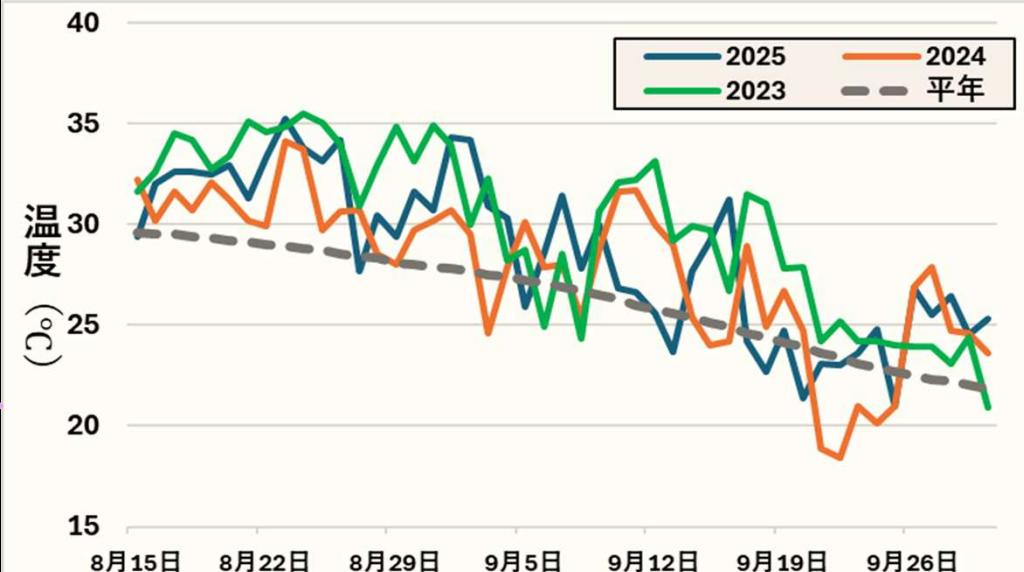
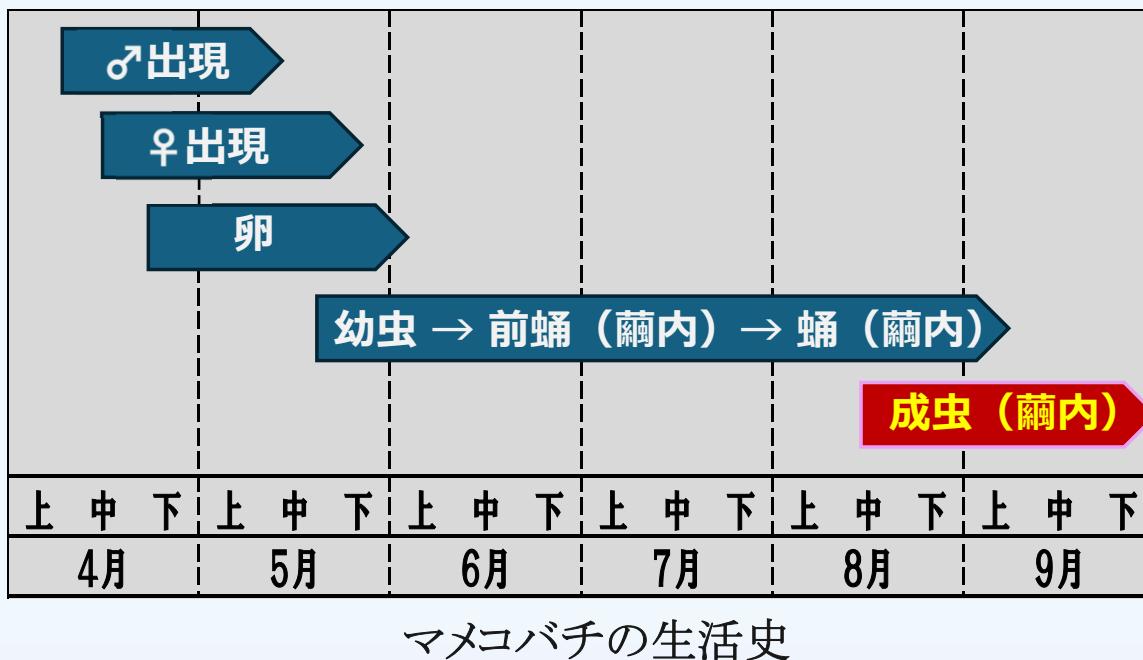
500本程度のヨシ巣から  
これしか繭が集まらなかつた

開花期に様々な園地で  
マメコバチを観察



ず～～っと観察しても  
数えられる程度しか  
マメコバチがいなかつた

# なぜ、マメコバチが激減しているのか？



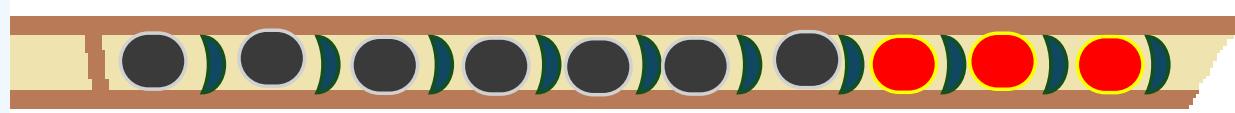
- マメコバチは5月頃に卵を産み、8月中旬以降、**繭の中で成虫**になる
- 繭の中の成虫は、**高温に弱い**



- ここ数年間、**異常高温**の年が続いている
- 特に、**秋になっても気温が下がらず**、暑さに耐えきれずに**死亡**しているのでは

# なぜ、マメコバチが激減しているのか？

夏～秋の期間中



出口

夏季～秋季にかけて  
異常高温によって、マユの中で成虫が  
越冬できずに死亡

翌年の開花期



出口

翌年の開花期に  
死亡繭が出口を防ぎ  
奥のマメコバチも道づれに

ヨシ巣から出られず  
そのまま死亡

出口を  
塞いでしまう

マメコバチの減少を加速、さくらんぼの受粉効率も低下！！

# マメコバチの繭洗浄をおろそかにしないで！

- 繭洗浄は、**マメコバチを救出**する大事な作業です (実施時期：11月～3月頃)



異常気象だからこそ、「繭洗浄」も当たり前に行う作業の1つではないでしょうか？

- マメコバチの天敵（コナダニ類、寄生バチ、カツオブシムシ等）を洗い流す

天敵の寄生によってマメコバチの**死亡率が高まる**

マメコバチの気持ちになつていただき  
生活しやすい環境作りをお願いします



←天敵が多発し、  
マメコバチが  
死亡した様子

# 繭洗浄に必要なもの

繭洗浄に必要な道具は、誰でもすぐに手に入ります



最も大事なのは、さくらんぼを成らせてくれる **マメコバチに感謝する心** です

# 作業①：ヨシ巣の切開（マメコバチの救出）

ヨシ巣に切れ目を入れる



切れ目から割していく



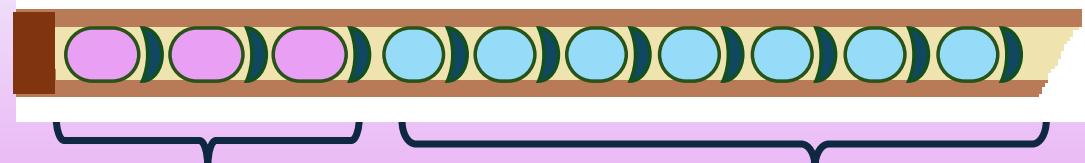
取り出した繭



Point !

- ヨシ巣の一番奥までキッチリ切開する  
(メスの繭を捨ててしまうといけないため)

ヨシ巣の奥



出入口

## 作業②：予備洗浄

集めた繭を冷水に投入する



網じゃくしで繭全体を濡らす



約3分後、繭をザルに移す



Point !

- 繭は水に濡れても大丈夫です  
心配せずにジャブジャブ濡らしましょう

## 作業③：本洗浄（この作業は3回程度繰り返し行う）

ザルをボールにセットし、  
冷水を入れる



ハケで繭をザルに擦りつける



3分後、水を捨てる



Point !

- 冷水の量は、繭が少しだけ浮く程度  
(冷水が多すぎると、繭がプカプカ浮いて、ザルに擦りにくくなる)
- 思っているよりも強めに擦りつける（繭を潰さない程度）

## 作業④：乾燥・保管

洗浄後の藷を新聞紙を敷いたトレー上で乾燥させる（2日間程度）



藷を紙箱に入れ、  
冷蔵庫等で保管する

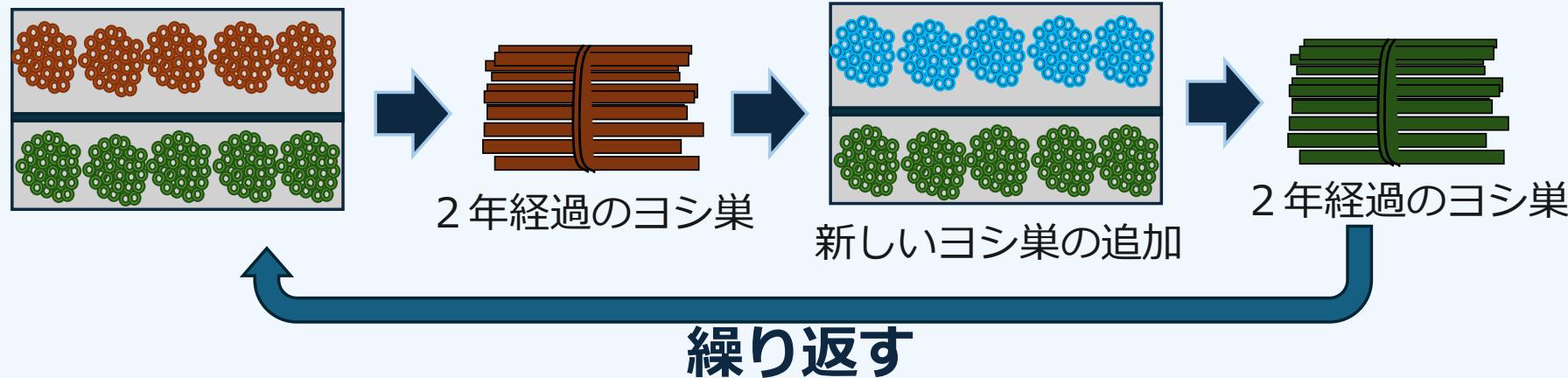


Point!

- 藕が凍らないような場所で乾燥させましょう  
(乾燥後は、そのまま放置せず、早めに紙箱に入れて、冷蔵庫等の冷暗所で保管する)
- 保管中にネズミ等から藷が食べられないように注意する

# マメコバチの優良園地でのお話

- マメコバチの繭洗浄は、**毎年欠かさず、2年経ったヨシ巣の繭を洗浄**している



- 今年、繭洗浄を行ったら、**今までで一番、ヨシ巣1本当たりの繭が少なかつた**  
(取り出した繭の総数も前年の**約5分の1まで減少**、やはり高温による影響か)



今年



これまで

# 最後に

一人で黙々と繭洗浄するもよし、  
仲間達と集まって繭洗浄するもよし、  
地域全体でマメコバチを増やしていきましょう！

